

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市あじさい大学運営委員会 あじさい大学見直し検討部会(令和元年度第1回)				
事務局 (担当課)		健康福祉局保険高齢部 地域包括ケア推進課 電話 042-769-9231(直通)				
開催日時		令和元年9月30日(月) 10:00~11:50				
開催場所		相模原市民会館 第2中会議室				
出席者	委員	6名(別紙のとおり)				
	その他	5名(生涯学習センター職員2名、相模原市シルバー人材センター職員3名)				
	事務局	4名(地域包括ケア推進課長、他3名)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	なし
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 あいさつ 2 議題 (1) あじさい大学の現状及び課題について (2) 課題に対する取組状況について (3) 検討 (4) その他				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は部会長の発言、 は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

2 あいさつ

小林部会長あいさつ

3 議題

次第に沿って、小林部会長の進行により議事が進められた。

(1) あじさい大学の現状及び課題について 及び(2) 課題に対する取組状況について
事務局から資料に基づき一括して説明を行った。

【主な質疑】

< 部会資料 1-3 について >

アンケート結果は非常に重要である。アンケートの分析をみると、全体的には合格点
をもらっていると思う。その中で、学習内容(p1)で「不満」と答えたのが小数だがあ
ったが、その内容は。

アンケートの当該設問では、選択肢のみで理由欄等は設けておらず、内容は把握し
ていない。

アンケート結果では、学習内容(p1)について「やや不満」がある。調理やパソコンな
どでは、実際にやることに遅れがあって、それが不満になるとも思う。

評価としては全体的に高く、実施内容について満足されており、一部の方が何らかの
視点で多少満足しないということで了解した。

会場(p2 及び p5)について、「近くて通いやすい」「ちょどいい」は、受講者のアンケ
ートなので、多分、近い方が近いところに行っていると思う。南区に多くしてほしいな
どとした場合の場所は把握していないのか。人気のあるところはなるべく大きい会場や
行きやすいところにすると、受講者が増えるのではないかと感じた。

場所までは把握していない。

市民大学の受講料は、どのように決めているのか。

市民大学の受講料は、1 講座の総時間数により、540 分未満の場合が 1,300
円、810 分未満が 1,900 円、810 分以上が 2,600 円である。

そうすると、あじさい大学の受講料は高いということではなく、また、改定されては
いるが負担になっているとは言えないと思う。

教材費(p2)について、「年度によって大きく異なる」との説明だが、同じ学科で講師
によってよって変わるということか。

費用は学科により異なるものではあるが、アンケートの集計結果が年度によって「適
正」が 48% から 72% までというように、幅が大きいことを表現したものである。

太極拳はどのような費用がかかるのか。

配付資料にかかる費用などである。

<部会資料 1-4 について>

できれば会場名に加え、学科数なども記載すると見やすい。

検討したい。

この資料を見ると、南区がこのくらいあり、中央区にはこんなに集まっているということがわかりやすい。南にもっと来てほしいとか、中央が多すぎるとか、緑さらには旧4町がないということが一目瞭然となっている。

当該資料への追加記載について、事務局において検討されたい。

<部会資料 1-5 について>

この調査は16歳以上の市民3千人を無作為抽出したもので、あじさい大学の項目もあるが、評価にストレートに用いるには無理がある。市民全体の傾向ということで、これに一喜一憂しないほうがいいと感じた。

<部会資料 1-1 について>

学生アンケートにある「校則」(p3)とはどのようなものか。

学科ごとに、班長や学科委員長を選出し、必要に応じて準備や片付け等を担っていただいている。これらを「校則」と言われているのかと思う。

市民大学は聴くだけ、それに対してあじさい大学は聴くだけではなく、そういうこともやることがあるということ。

始めと終わりの号令かけもある。懇親会をやった学科もあると聞いた。何かやらないと仲間づくりはできないと思っている。

そのほか、緊急連絡網により熱中症対策等、急な休校などへの対応がある。

(3) 検討

これからの進め方について、検討する課題を整理した部会資料 1-1 の2「(1)課題の概要について」を利用し、順次検討することとする。

「ア 現在の目的は妥当か」について

【主な質疑】

昭和56年度からの歴史の中で、本来的な目的があったと思う。年数を重ね、当初の目的が達成されたものもあるかもしれないが、今だからこそ原点に立ち返って本来の趣旨でやるべき時期にきていると思う。

カルチャーセンターに参加される方は、学習というよりも自分の知識を深めようとか、いろいろな目的があると思う。高齢者学級は、公民館で実行委員会を作って、自分たちが自分たちで勉強しようということで、それなりの目的がある。市民大学は、学習が中心という趣旨がある。あじさい大学はというと、福祉的な発想があって、高齢者が仲間づくり、健康増進、生きがいづくり、まさに本来の目的はそういうもので、余暇の活用や仲間づくりをしようというねらいがあった。だからあじさい大学は、カルチャーセンター、高齢者学級、市民大学とは違う形で継続していけばいい。背伸びをする必要はな

い。もっと原点に立ち返った中でやるのが大事だと思った。

この文面（文章）でいいたろうということ

大学というのは、だいたい教養とかそういうのが最初にくる。そういう意味で、この文章を最初に読んだときに、ひっかかった。「余暇の活用と仲間づくりを図り」云々と「教養と文化の向上をもってして」が逆ではないかと直感的に思ったが、今の委員意見で、そうなのかなと改めて勉強したところである。

大学というと、仲間づくりというイメージはない。このアンケートは、仲間がいっぱいできていいですよといいことが書いてあるが、このような質問をすると、多分OKを出すだろう。仲間づくりは、学問でなくても、例えばテニスをやっても何をしてもいい。それが主体だと書くことには、少しひっかかるころはある。「教養と文化の向上」をもう少し前に持っていきたいという気がした。

こだわるわけではないが、この原点でいいと思う。そこに新しい要素をどう加えていくか、どう魅力をそこで出すような趣旨にしていくかというところが大事であって、基本路線は変えなくていいと思っている。

目的は、昭和56年度当初からのものなのか。

確認する。

いろいろな制度がある中で、どちらかというところとあじさい大学は後発。福祉として何ができるのか、高齢者に対して何が大事なのかという視点で作ってきたものだと思うから、あまり変わっていないのかなと。文言はどこかで修正が入っているかもしれないが。

あじさい大学は、昭和56年度に受講料無料で、高齢者福祉施策としてスタートしたと認識している。受益者負担の考え方などにより有料化したか、ベースは福祉施策であるととらえている。

受講者が減り、どうしようかということなので、基本は変えないで、受講内容などを検討したらいいのではないかと。一本の筋は変えず、受講者に対してどうしたらこれから多くなるかとか、授業の内容や場所などを変えていくことでいいのではないかと。

目的については、一応保留とし、次の課題に進み、また振り返ることとする。「優先」ではないところも絡んでくると思うが、「(1) 課題の概要について」に「優先」と書いてある順にだいたい進めたい。

(4) その他

今回は、10月24日（木）午前10時から開催することとした。

閉会

あじさい大学見直し検討部会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小林 政美	社会教育委員会議 委員	部会長	出席
2	安藤 正義	老人クラブ連合会会長	副部会長	出席
3	堤 道子	民生委員児童委員協議会常任理事		出席
4	池田 直道	市文化協会 会長		出席
5	川上 宏	市体育協会 常務理事		出席
6	佐々木 務	学生代表（P C 1）		出席